

2023年4月14日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）

北勢地域でも「伊勢茶」初市開催

鈴鹿市、四日市市、亀山市の3市を中心に、鈴鹿山麓に茶園が広がる北勢地域。鈴鹿市にある茶市場、JA全農みえ北勢茶センターで「伊勢茶」の初市を開きます。

今年の茶の生育は例年より少し早く、初市は昨年より6日早い開催となります。茶園の状況は良好で、品質のよい新茶が育っています。

初市では、生産者（JA販売担当者）と茶商の間に仲立人^{なかだちにん}が入り、五つ玉のそろばん片手に交渉をとりもち、話がまとまると、三者で威勢よく手を3回たたき手締めをします。昔から変わらない商習慣です。

茶どころ三重の初夏の風物詩でもある、初市のようにすをぜひ取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

■と き：2023年4月21日（金）13：30～ 初取引（^{あいたい}相対取引）

■ところ：JA全農みえ 茶販売課 北勢茶センター
鈴鹿市花川町80-1 TEL059-374-0322

■主 催：同センター（茶販売課長 前田順士）



昨年度北勢茶センターでの初市の様子



<ご参考>

【昨年の初取引結果】

開 催 日	2022年4月27日
出品点数・数量	12点、141.6 ^{キログラム} （煎茶、かぶせ茶、玉露）
最 高 価 格	18,000円/ ^{キログラム}
平 均 価 格	5,555円/ ^{キログラム}

【伊勢茶とは】

「伊勢茶」とは、三重県内で生産されたお茶のことをいい、主に「煎茶」「深蒸し煎茶」「かぶせ茶」の3種類が生産されています。

恵まれた立地条件の中で栽培され、生育が良好なため、葉肉が厚く、一般に飲まれているお茶に比べて味・香りともに濃いのが特徴です。そのため、2煎目、3煎目まで濃厚な味わいを楽しめます。

三重県は、栽培面積、荒茶生産量ともに、静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位のお茶どころです。茶種別では、かぶせ茶の生産量が全国第1位で、全国シェアの59.4%（2021年産）を占めています。

【三重県の風土と伊勢茶】

三重県は南北に細長い地形ですが、県内の大半は年平均気温が14～15℃と温暖で、茶の栽培に必要とされる年間降雨量1500mm以上の地域では、ほとんどが茶の生産適地となっています。

三重県での摘採時期は、地域による差はあるものの、おおむね一番茶は4月下旬から5月中旬、二番茶は6月下旬から7月上旬となっています。これは全国的に見ると、遅場の産地となります。

県内の農場では、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証である国際的な「GAP認証」を数多く取得しており、地域全体で安心・安全な緑茶づくりに取り組んでいます。

【北勢地域の伊勢茶】

鈴鹿市、四日市市、亀山市の3市を中心に、鈴鹿山麓の比較的傾斜のゆるやかな丘陵地に茶園が広がっており、経営規模の拡大がすすんでいます。

茶種は、「煎茶」「かぶせ茶」が多く、「てん茶」や「もが茶」（加工用粉末緑茶の原料）などの生産も行われています。